

事故防止及び 事故発生時対応 マニュアル — 基礎編 —

み

ま

も

い

睡眠中

水遊び中

食事中等



はじめに

本市では、平成 28 年 4 月に認可外保育施設において、児童の死亡事故が発生しました。「こども・子育て支援会議 教育・保育施設等事故検証部会」より出された提言の中でも、事故対応マニュアルの整備が必要と示されています。

この「み・ま・も・り - 基礎編 -」には、

**事故予防のためには何が必要か
具体的には何をすればいいのか
事故が起きてしまったらどうすればいいのか 等**

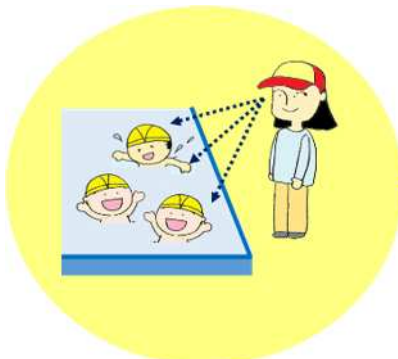
重大事故 が発生しやすい場面（睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等）や緊急時の対応をチェックポイントで示しています。

重大事故とは・・・死亡事故、意識不明等の重篤な事故

一つひとつチェックすることで、基本的な安全確認ができるようになっていきます。安全で安心な保育を行い、大切な『こどもの命を守る』ために、ぜひご活用ください。

目次

- **み**んなで取り組む事故予防 ～こどもの命を守るために～ P 1～3
- **ま**ず確認！睡眠中も保育中 ～睡眠時安全チェックポイント～ P 4・5
- **も**ちろん配置！水遊びには監視役
～プール活動・水遊び安全チェックポイント～ P 6・7
- **り**スクを減らす！いつも観察 誤嚥予防
～誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント～ P 8・9
- 事故発生時の対応 P 10～13



みんなで取り組む事故予防

～こどもの命を守るために～

事故発生時、

どう対応するか 想像できますか？

いつもならできることが
とっさにできない 可能性があります

早期発見 が

こどもの命を助けることにつながります



こどもを **見守り**、異変に気づく

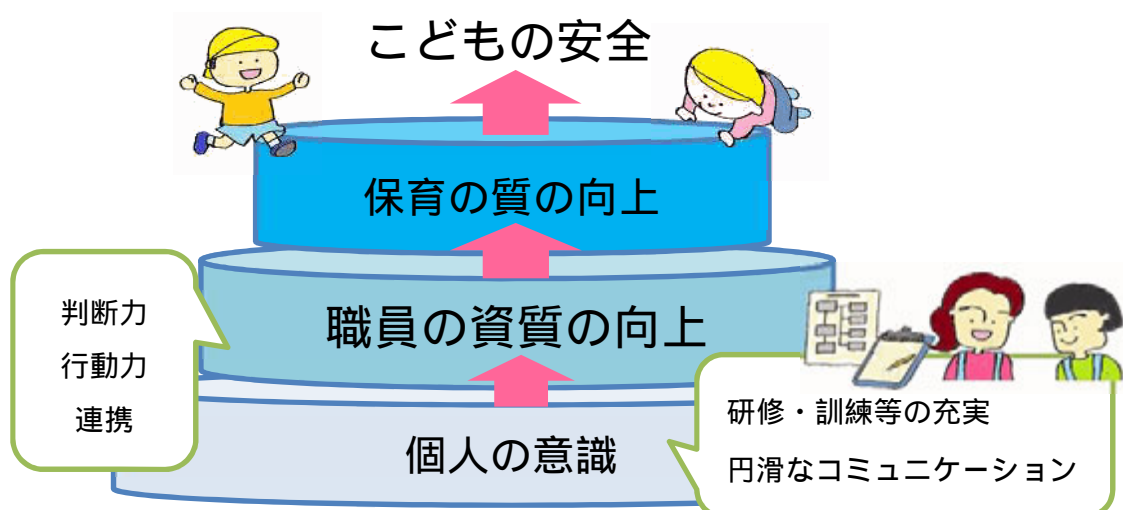
あなたの **気づき** がこどもの **命を守ります**



あの時こうしておけば・・・という思いをしないように

今できることを考えましょう

こどもが安心できる環境づくりには
職員一人一人の意識が大切です



「誰かが見てくれていると思っていた」ではなく
声を掛け合い、常にこどもの動きを把握しましょう



保育現場には、さまざまな体験の機会があります
 こどもたちは豊かな体験を通して成長していきます

一方で、

命に関わる危険なリスクも潜んでいます

例えば…

危ない！



窒息の危険のある遊具をプール時に
 使用してしまっていた！（ヒヤリハット*）

もしかしたら、口に入れてのどに詰めて
 しまったかもしれない・・・

口に入らなくてよかった～

プールでスーパー
 ボールを使っていて、
 「ヒヤッ」としました。

プールでスーパーボールを
 使わないよう、再度、
 皆に伝えましょう。



ではなく！

職員間で予防策を考える

ヒヤリハットとは、事故になる可能性があった「ヒヤリ」「ハッと」したできごと

ヒヤリ

事故

ハット

ヒヤリ

「ヒヤッ」とした経験を
 職員間で共有することは
 事故予防につながります

チェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう



重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめました
それぞれの場面に合わせた危機管理を行い、事故を防ぎましょう

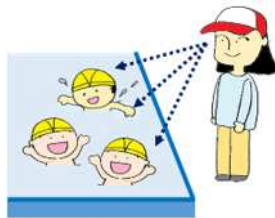
睡眠中

睡眠時安全チェック
ポイント(P 4・5)



水遊び中

プール活動・水遊び安全
チェックポイント(P 6・7)



食事中

誤嚥・誤飲・窒息事故防止
チェックポイント(P 8・9)



万が一、事故が起こってしまった場合



「事故発生時の対応(P10~13)」に従い、迅速に対応する



そのためには事前に**シミュレーション**(状況に応じた役割分担の訓練)
を行っておくことが必要です!

職員間で事故予防や発生時の対応
について共通認識を持ちましょう



まず確認！ 睡眠中も保育中

睡眠時安全チェックポイント



睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうる』
かも...

「こどもの安全を最優先とする」意識の徹底



- ・睡眠中も保育である
- ・睡眠中のリスクの共有
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等
- ・見守り(観察・記録)に専念できる体制づくり
- ・緊急体制の整備
 - ✦ 心肺蘇生法・AEDの操作研修の実施
 - ✦ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施

チェックポイント



1 入園時の確認

入園児の生育歴等を把握する
配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する

SIDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する

こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)

こどもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る



チェックポイント



2 睡眠中の観察

- 特に、預かり初期は注意深い見守りを！ —
- 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
 - 0 歳児は 5 分毎
 - 1 歳児以上は 10 分毎
- に観察する
- | 項目 |
|---------------------|
| ・名前の確認・顔色・唇の色 |
| ・呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き) |
| ・呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり) |
| ・熱感(体に触れて体温・発汗等) |
| ・体位 |
- その都度、睡眠時観察表に記録する





3

睡眠環境等の確認

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく



敷布団は固めのものか
 掛け布団は軽いものか
 コットの上のマット等は固定されているか
 枕は使用していないか
 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

適宜換気を行っているか



体調等いつもと違う様子はないか
 水分補給はできているか
 口の中に何も入っていないか

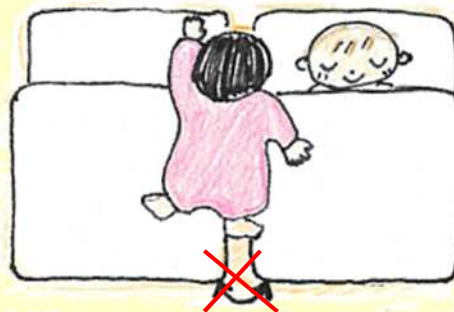
よだれかけは、はずしているか
 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
 おもちゃ等を持っていないか
 すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか



動いて上にのることも



子どもが生活する高さ



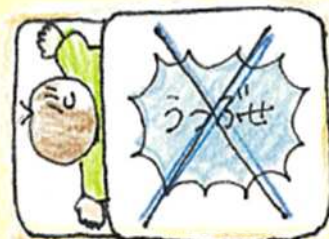
部屋は暖めすぎているか

寝かしつける時から仰向けにしているか

温度・湿度の目安

	温度	湿度
冬	20~23	約60%
夏	26~28	約60%

- ・室温湿度計は子どもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- ・冷房は床面の温度が2~3 低い場合があるので、睡眠時は留意する



睡眠中は床暖房やホットカーペットを使用しない（暖めすぎの防止）

もちろん配置！ 水遊びには監視役

プール活動・水遊び安全チェックポイント



安全対策の確立



監視体制の確立

監視者が監視に専念できる体制作り



緊急体制の確保

心肺蘇生法・AED 操作研修及びシミュレーション研修の実施（状況に応じた役割分担の訓練）



乳幼児の特性とリスク

10 cmの深さでも溺れることがある



安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動の中止も選択肢とする

こどもの安全が最優先

監視者とは

監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置する



監視者はプールサイドの子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をしたりせず、監視に専念する者

「監視者」の目印等を決める



役割

- プール全域をくまなく監視する
- プールに参加しているこどもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かないこどもや不自然な動きをしているこどもを見つける ← **静かに溺れることが多い**
- 特定のこどもに視線を固定せず、定期的に視線を動かしながら全体を監視する
異常かどうかの見極めは、**顔（特に目）**を見る
- 持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する

チェックポイント



1 事前管理

- 慢性疾患等の配慮を必要とするこどもへの対応の確認
- 当日プール活動ができないこどもへの対応の確認
- 排泄が自立していないこどもへの対応の確認
- プールに入る人数の確認（人数を考慮しているか）

チェックポイント



2 活動実施の判断

- プール活動ができる環境か
 - ・雨天、強風、雷が鳴ったとき
 - ・光化学スモッグ警報発令のとき
 - ・PM2.5 の注意喚起のとき
 - ・暑さ(熱中症)指数が高いとき
 - ・土、砂等による汚染が著しいとき

一つでも当てはまる場合は中止とする



: 設備・環境



: こども



: 職員

チェックポイント



3 環境の整備



- 日よけ対策は行っているか
- プールの破損・亀裂はないか
- 石やガラス等、危険物はないか
- プールサイドは滑りやすくなっていないか
- 排水溝の安全点検は行ったか
- プールの清掃と整理は行ったか
- プライバシーへの配慮は行っているか
- 監視場所に死角はないか
- 心肺蘇生法・AED 操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか (P10~13 参照)
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等) の確認は行ったか

チェックポイント



4 活動前の確認



- プール環境は適切か
(気温 26 以上・水温 27 以上)
- 水深は年齢に応じて調整できているか
- 適正な塩素濃度になっているか
(塩素濃度 0.4 mg/L ~ 1.0 mg/L)
- こどもへの安全指導を行ったか
- 薬の預かりはないか
- 体温はどうか
- 顔色・機嫌はどうか
- 目ヤニ・充血・鼻水・発疹等はないか
- 傷はないか (あれば状態はどうか)
- 便の状態はどうか
- 水分補給は適切に行ったか
- 帽子を着用しているか
- 準備体操を行ったか
- シャワーで適切に体を洗ったか
- おしりに排泄物が残っていないか
- 窒息の危険があるおもちゃはないか
- 職員の健康状態はどうか



チェックポイント



5 準備物の用意



- 塩素剤
(使用上の注意を必ず読んでおく)
- 残留塩素測定器・試験紙
- 気温計
- 水温計
- プール管理日誌
- 時計
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等)
- 拡声器・携帯電話 (緊急時に応援を呼ぶ)

こどもの手の届かない位置に保管

チェックポイント



6 活動中の確認



- こどもの人数を把握できているか
- 人数を監視者に伝えたか
- 適正な塩素濃度を維持しているか
(10~20 分毎に測定する)
- 健康状態 (顔色や身体の様子) はどうか
- 監視者はプール全域をくまなく監視しているか

チェックポイント



7 活動後の確認



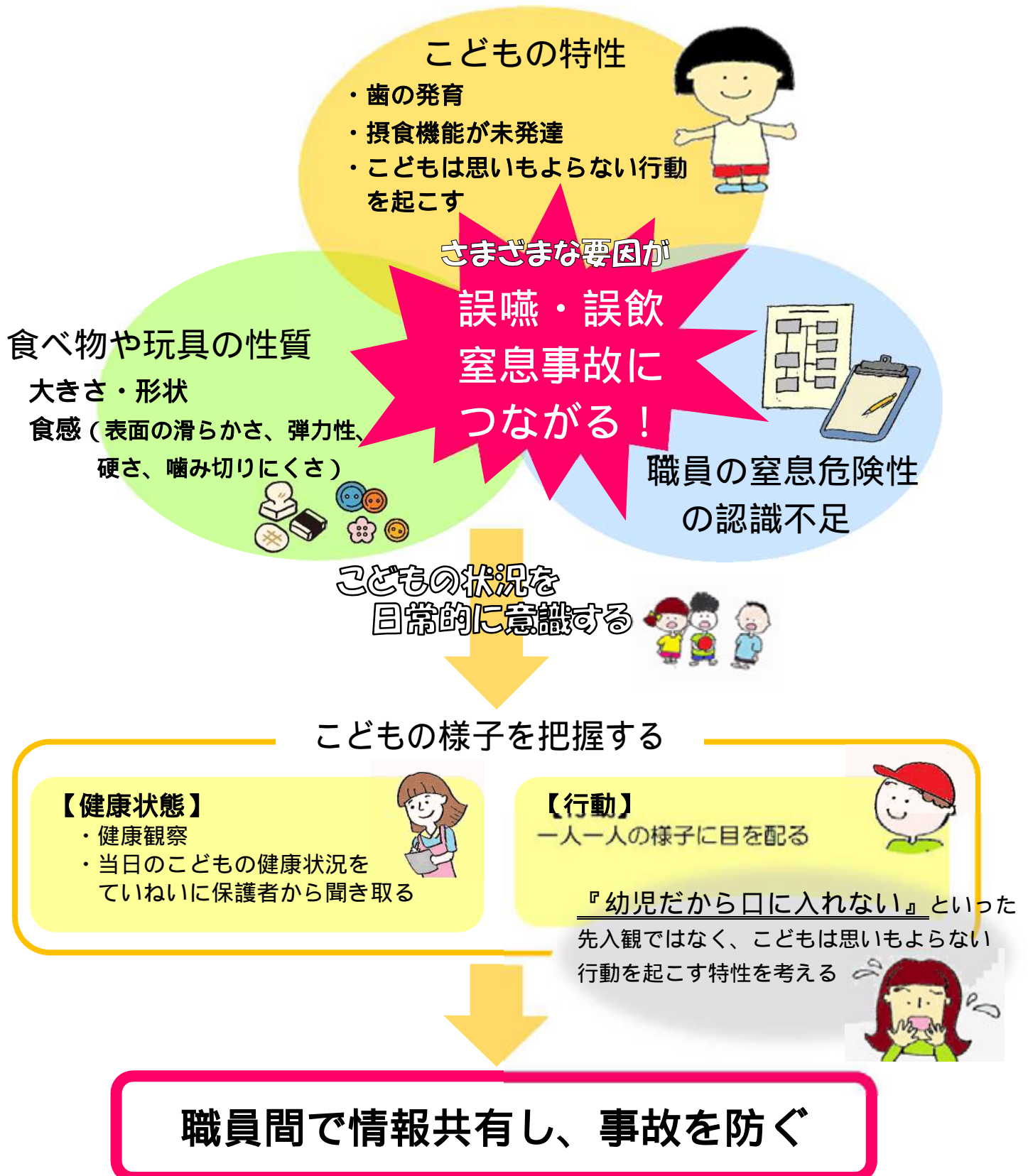
- ケガはないか
- 健康状態はどうか
- シャワーで体を洗ったか
- うがいをしたか
- 水分補給をしたか



- 保育室の室温は適切か
- 速やかにプールの水を排水し、鍵を閉め (カバーをかけ) たか
- プール管理日誌に記録をしたか

1) スクを減らす！ いつも観察 誤嚥予防

誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント



食事



チェックポイント



1 環境

食器・食具は適切か
机・椅子の高さは適切か
慌てて配膳していないか
(誤配膳防止を含む)

チェックポイント



2 食品の形態

大きさ・形状・温度・量・粘着度等は適切か
個々に応じたひと口の量・大きさに調整しているか

チェックポイント



3 食事時間

ゆったりとした保育の流れとなるよう工夫しているか
食事前に水分を摂ったか
詰め込まないよう指導できているか
食べるスピードが速すぎないか
よく噛むよう指導できているか
「笑う」「泣く」が起きた時には詰まらないかどうかを観察できているか
眠くなっているときに無理に口の中に入れていないか
食べ終わりに口の中が空になっていることを確認したか

食事以外(保育時間中)

チェックポイント



誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか
(家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨、フード付き上着等を持参していないか)



発達に応じたおもちゃを選択しているか(素材や大きさなど)

ボタンや髪留め、飾りやアクセサリ、ビニール袋等が身近にないか



こどもの手の届く場所に危険なものがないか(口に入るものなど)

薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか



菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか

異年齢と一緒に遊ぶ場合は、状況に応じたおもちゃを選択しているか、または、コーナーに分かれて遊んでいるか

確認しましょう!

チャイルドマウス

51mm
の楕円形

3歳児の
最大口径
39mm 円形

この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります

誤飲物を縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、こどもが飲み込んだり、窒息の危険があります

乳児クラスについては、身の回りに口に入りそうなものはないかチェックしてみましょう

事故発生時の対応（救命処置が必要な場合）

あっちで遊ば～



初期対応

応急処置ができるよう場所を空け、
他の園児をその場から離す

他児の保育

（担当： ）

チェックポイント

1 反応の確認

反応はあるか

反応がない

反応があるが、いつもの反応でない

チェックポイント

3 呼吸の確認

呼吸はしているか

呼吸がない

呼吸がある

心肺蘇生を行う
AED 装着

様子観察



こどもの側から離れない！

呼吸をしているか等、こどもから
目を離さず確認

心肺蘇生・応急処置

（担当： ）

P12 を見る！

こどもの観察・記録

（担当： ）

注意！

溺れかけたり、窒息しかけた場合は、元気そうに見えても、できるだけ早期に受診する

チェックポイント

P13 を見る！

2 救急車の手配

119 番通報（担当： ）



チェックポイント

4 連絡

- 保護者へ連絡
- 大阪市保育企画課へ連絡
[認可施設] 6208-8340
[認可外施設] 6208-8114

連絡係

（担当： ）

AED 設置場所

（ ）



救命処置

発見者！直ちに！その場で！対応開始！

反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても
何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」とみなす



周りに知らせる！119番通報！ 笛等で応援要請！人を集める！

呼吸を見る！

気道の確保

呼吸なし



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！

反応がなく、呼吸がないか、**死戦期呼吸**（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は**心停止と判断**、心肺蘇生(CPR)の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する
睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内の確認！

心肺蘇生 (CPR)

(胸骨圧迫30回：2回人工呼吸)
強く・早く・絶え間なく！中断しないこと！

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

1歳以上



片手の付け根で
乳首を結ぶ線の真ん中
胸の厚さ約1/3
くぼむまで
少なくとも100~120回/分

1歳以上は口対口人工呼吸(鼻はつまむ)

1歳未満



中指・薬指の2本で
乳頭を結ぶ線の少し下
胸の厚さ約1/3
くぼむまで
少なくとも100~120回/分

1歳未満は口対口鼻人工呼吸(口鼻一緒に)
胸が軽く膨らむ程度の量で行う

AED 装着

心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！

電極パッド装着

AEDのメッセージに従う

必要あり

「必要」と音声 flowed たら音声に従い**電気ショックボタンを押す**
その後、心肺蘇生を再開する

必要なし

「不要」と音声 flowed たら、
ただちに、心肺蘇生を再開する

電極パッドを貼り付けるときもできるだけ胸骨圧迫を継続する

職員はAEDがどこに設置されているのかを把握しておく

各施設の名称、住所等、具体的な状況を入れましょう。

119番通報

【例】

種類・・・「救急です。」

場所・・・「住所は大阪市〇〇区〇〇、〇番地の〇〇園（施設名）です。」
「（目標物）〇〇郵便局の北側
100mです。」

通報者・・・「私は〇〇園（施設名）の〇〇です。
電話番号は〇〇〇〇 - 〇〇〇〇
です。」

被害状況・・・「〇歳児 名が〇〇な状態です。」

こどもの状態を聞かれたら簡潔に伝える。

参考

突然の病気やケガで救急車を呼んだ方がいいか、病院に行った方がいいか等、判断に困ったときは

『救急安心センターおおさか』に電話を！

電話 7 1 1 9 または 0 6 - 6 5 8 2 - 7 1 1 9
(携帯電話・PHS・プッシュ回線) (すべての電話)



事故防止及び事故発生時対応マニュアル - 基礎編 -

平成 30 年 4 月

発行者 大阪市

編集者 大阪市こども青少年局保育施策部保育企画課

〒530-8201 大阪市北区中之島 1 丁目 3 番 20 号